

新潟県立歴史博物館評価委員会

平成 29 年度における  
館の自己点検に対する  
二次点検評価報告書

平成 30 年 8 月



## 活動評価表（総括）

### 博物館の基本理念

- 県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像<sup>※</sup>を県民とともに創造していきます。
- 人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。

こうした活動を通して

『より県民に愛され、利用され、“にぎわいのある博物館”』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

### I 博物館による自己点検と評価

○ [評価指標] 利用者数 (単位:人)

	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度
	実績	目標	実績	目標
① 利用者総数	(単年) 109,847 (前計画期間平均) 102,822	増加 させる	106,489	増加 させる
② 観覧者数	(単年) 51,467 (前計画期間平均) 52,830		52,423	

○ [評価指標] 満足度

	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度
	実績	目標	実績	目標
① 来館者満足度	97%	維持・向上 させる	95.4 %	維持・向上 させる
② 企画展	91%		92.3 %	
③ 講座等 講座・講演会 体験コーナー	94% 99%		96.0 % 96.0 %	
④ 来館者対応	98%		99.5 %	

取組実績

- (1) **収集保管** 収蔵資料データ整理の進展、収蔵庫の良好な保存環境の継続
- (2) **展示** [常設展] 展示環境の維持、ワンポイント解説ゲスト解説の実施  
[企画展] 有料展覧会 4 回実施（「猫と人の 200 年 アートになった猫たち」、「クイズとたいけん！むかしのくらし」、「川中島の戦い—上杉謙信と武田信玄—」、「守れ！文化財—博物館のチカラ、市民のチカラ—」）  
[その他] 移動展覧会「復興祈念展」（福島県二本松市）
- (3) **調査研究** 外部研究費 6 件（ほかに研究分担者としての取得 3 件）
- (4) **教育普及** 館内講座・出前講座の継続、体験活動の新プログラム 3 件導入、教育機関への周知活動の継続、館内ボランティア活動の活発化（体験プログラム開発に参加）
- (5) **連携** 社会福祉施設などとの新規連携、地域史研究ネットワーク、友の会事業の着実な充実 など
- (6) **情報発信** 新聞雑誌等への露出増、ホームページ及び SNS（フェイスブッ

	ク、ツイッター) による情報発信 (7)管理運営 博物館運営方針 (H29～) に基づいた PDCA の継続
分析	(1)利用者総数、観覧者数ともに好調。 ★観覧者数 常設展 H28 : 13,908 人→H29 : 12,623 人 (1,285 人減) ※うち、有料観覧者数 8,230 人=59%→7,643 人=60% 企画展 H28 : 37,559 人→H29 : 39,800 人 (2,241 人増) ※うち、有料観覧者数 17,831 人=47%→19,664 人=49% 春季・夏季企画展とも 1 万人を達成。 企画展、館外活動 (移動展) などの利用者が増えたものの、利用者総数は前年度より減 (▲3.1%)。 (2)満足度の評価指標は、各項目とも昨年並みを維持している。相対的には企画展がやや低い。 (3)取組実績のうち、外部研究費 (科研費) 取得、連携活動の活発化、情報発信の拡充強化などが一定の成果として挙げられる。
課題	(1) 企画展の展示方法・テーマ設定のさらなる工夫 (2) 具体的な集客に向けた広報等への新たな取組 (3) 調査研究活動の充実と県民還元の推進 (4) 支援団体・協力者との一層の連携強化
取組に対する 自己評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な設備の更新やリニューアルがなく、開館から 18 年が経過している中で、利用者総数、観覧者数や利用者満足度を高く維持している点を評価する。自己評価が、昨年度に比較し、プラス評価が増加していることは、評価委員会としても、納得がいく。</li> <li>・経年にもなう施設設備・常設展示・機器等の劣化が見られる。各種機器や設備などの大幅な改修やリニューアル計画が新潟県開催の国民文化祭や東京オリンピック・パラリンピック等のイベントを見据え、早期に実現することを期待する。</li> <li>・新潟県文化振興ビジョン (平成 29 年 4 月) のデータによれば、県立歴史博物館を訪れた県民は、まだ 3 割程度である。立地上の困難はあるが、さらに情報発信に努力し、一層の利用者の拡大を図り、県民が新潟県の歴史や魅力を再発見し、地域に誇りと愛着を持つ契機を提供すると同時に、県の文化振興の拠点施設としての存在意義を一層期待する。</li> <li>・資料の保管環境の良好な維持に関する、ハード、ソフト両面での継続的取組を今後も維持していくことを期待する。データベース入力も大幅に更新し、今後も資料整理、公開を計画的に進めるための継続的な予算措置を望む。</li> </ul>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	収集・保管	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を押し進める。</li> <li>・ 良好な資料保存環境を維持する。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。</li> <li>・ IPMによる環境管理を継続する。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価															
取組実績	○ [評価指標] 収蔵資料目録の刊行準備	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th colspan="2">平成 29 年度</th> <th>2021 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>1 目録</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1 目録</td> </tr> </table>		平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	1 目録	1	1	1 目録
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度											
	実績	目標	実績	目標											
	1 目録	1	1	1 目録											
	○ [評価指標] データベース公開数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th colspan="2">平成 29 年度</th> <th>2021 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>— (新規)</td> <td>300 件以上</td> <td>1500 件</td> <td>300 件以上</td> </tr> </table>		平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	— (新規)	300 件以上	1500 件	300 件以上
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度											
	実績	目標	実績	目標											
	— (新規)	300 件以上	1500 件	300 件以上											
	<b>収集</b>														
	(1)資料寄贈 15 件														
(2)収蔵資料破損 なし															
(3)収蔵品整理作業 継続															
<b>保管</b>															
(1)文化財害虫モニタリング測定 月 1 回															
(2)殺・防虫消毒 展示室殺虫消毒 1 回 館内殺虫消毒 1 回 館外防虫施工 2 回 燻蒸室内燻蒸 3 回															
(3)収蔵庫温湿度管理 通年															
(4)空気環境管理 酸・アルカリ濃度測定 4 回 (収蔵庫、企画展示室) カビ等浮遊菌調査・イオンクロマトグラフ空気中物質測定 各 1 回															
(5)収蔵庫定期清掃及び資料点検 1 回															
(6)収蔵庫定期点検 月 1 回															
(7)IPM 研修 3 回															
(8)保管環境研修会参加 文化財 IPM コーディネータ講習会															
分 析	(1)越後文書宝翰集の目録を刊行。 (2)データベース入力作業は着実に継続され整備が進められている。 すでに公開条件を備えた登録データが多かったため公開数が目標より大幅増となったものであり、目標値は変更しない。 (3)保管環境は IPM、殺・防虫消毒、温湿度管理、空気環境管理、清掃、定期点検をとおして概ね良好に維持され、全国規模の保管環境研修への館員参加によって、職員個々の技術の維持向上がはかられている。														
課 題	(1)分野により資料整理作業への時間配分が確保できない状況がある。														

取組に対する 自己評価	評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留
----------------	--

Ⅱ 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース公開数の実績は、目標よりも大幅増加で達成している。ただし、利便性の向上や、完成に向けての工程表が必要であろう。</li> <li>・保管に関しては、日常の点検、研修会の参加など、その維持に努めており、今後も継続していただきたい。</li> <li>・資料収集は博物館の基本理念、収集方針に則った上で、必要な場合には寄贈以外にも購入の検討ができる環境が望ましい。</li> </ul>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	展示ー常設展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。</li> <li>・常設展示の十分な活用を推し進める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。</li> <li>・より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ [評価指標] 新規テーマ展示	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>2 件</td> <td>2 件</td> <td>2 件</td> <td>2 件以上</td> </tr> </table>			平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	2 件	2 件	2 件	2 件以上
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	2 件	2 件	2 件	2 件以上												
○ [評価指標] ワンポイント解説	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>558 人</td> <td>500 人</td> <td>708 人</td> <td>500 人</td> </tr> </table>			平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	558 人	500 人	708 人	500 人	
平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度													
実績	目標	実績	目標													
558 人	500 人	708 人	500 人													
<p>(1) 定期資料展示替え 新潟県のあゆみ・雪とくらし・米づくり・縄文文化を探る、それぞれについて4月、10月に実施。</p> <p>(2) 常設展定期点検 隔週（照明・電気の点検、ケース内及びガラス清掃）</p> <p>(3) 常設展の保守点検・補修 2回（展示品・機器の総合点検）</p> <p>(4) 常設展示ワンポイント解説ゲスト解説の実施 上越市公文書センター・福原圭一学芸員（7月）、県埋蔵文化財センター・荒川隆史課長代理（12月）。</p> <p>(5) 映像情報コーナー機器 一部入れ替えを実施。</p> <p>(6) リニューアル内部検討委員会 他館状況調査、アルバムディクショナリーワークショップを開催（参加者17名）。</p>																
分 析	<p>(1) 展示資料交換を行っていることが観覧者にわかるように展示期間を明示している。</p> <p>(2) 常設展示ワンポイント解説ゲスト解説は、参加者数が合計42人を数えた。</p> <p>(3) 設備・機器・資料等は定期点検や保守点検で維持され、良好な見学環境を保っている。</p>															
課 題	<p>(1) 音声解説器・映像情報コーナー機器、蛍光灯照明など、不具合が生じており、部品調達の困難な機器の更新を早急に行う必要がある。</p>															
取組に対する自己評価	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留											

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価指標の目標は達成しており、その点は評価できる。</li> <li>・展示内容の変化を加えることが難しい中で、ゲスト解説などを継続して行っている。今後も工夫を凝らした展示活動の改善に努めてほしい。</li> <li>・課題にある部品調達が困難な機器の更新は、修繕だけの問題ではなく、リニューアルの検討と連動しながら取り組む課題であろう。</li> <li>・リニューアル内部検討委員会の設置は評価できるが、関係部署や外部の有識者を交えるなどして、より具体的な構想、方向性の提示が望まれる。</li> </ul>



## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	展示－企画展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。</li> <li>・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回程度の企画展の実施を目標とする。</li> <li>・入場者の満足度を高める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 企画展示室実施事業数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>7 回</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>7 回以上</td> </tr> </table>			平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	7 回	7	9	7 回以上
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	7 回	7	9	7 回以上												
	○ [評価指標] 満足度	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>91%</td> <td>90%</td> <td>91.8%</td> <td>90%</td> </tr> </table>			平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	91%	90%	91.8%	90%
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	91%	90%	91.8%	90%												
	(1) 企画展	観覧者数(実績)	(開催日数)													
	春「猫と人の 200 年」	13,786 人	(45 日)													
夏「クイズとたいけん！むかしのくらし」	12,491 人	(39 日)														
秋「川中島の戦い」	9,240 人	(38 日)														
冬「守れ！文化財－博物館のチカラ、市民のチカラ－」	4,283 人	(58 日)														
	※企画展の目的・展示内容・関連イベント・広報等の詳細は別紙。															
(2) 関連講演・講座	講演会毎回開催、展示解説実施															
(3) 関連イベント等	春「国際博物館の日記念 無料観覧日」の設定 「ネコ缶バッジを作ろう！」(体験コーナー) 夏「ミニ草履の飾りを作ろう」(体験コーナー) 秋「作って遊ぼう！戦国時代」(体験コーナー)															
(4) 塗り絵コーナー	春季企画展において、企画展示室前に設置															
(5) 特別イベントの実施	夏季企画展において、館内各所に特設会場を設置し、「むかしあそびまつり」を実施した。															
(6) 企画展以外の企画展示室実施事業	6～7 月・友の会主催展覧会「第 14 回マイ・コレクション・ワールド」 11 月 ・鉄道模型走行実演会(長岡鉄道模型クラブ) ・長生橋 80 周年事業実行委員会主催展覧会「長生橋の魅力(ステキ)再発見写真コンテスト入賞作品パネル展」 ・縄文子どもフォーラム 2017～縄文のメッセージ・私のメッセージ～(火焰街道博学連携プロジェクト) 11～12 月・新潟県埋蔵文化財センター巡回展「縄文の造形美～六反田南遺跡」 12 月 ・火焰街道博学連携プロジェクト主催展覧会「子ども縄文研究展 2017															

～縄文のメッセージ・私のメッセージ～	
分析	<p>(1) 講演会・関連イベントなどは、毎回好評を得た。</p> <p>(2) <b>春季展</b>は、当館における従来の企画展ではあまり見られない客層（若い女性、カップル等）の来館があった。  <b>夏季展</b>は、夏休みに合わせ子どもでも楽しめる企画を教員籍スタッフが加わり工夫した。親子連れの来館者が多くあった。  <b>秋季展</b>は、県外からの来館者も多く、当館の活動を広く知ってもらうことができた。また、館蔵資料である越後文書宝翰集の活用もできた。  <b>冬季展</b>は、博物館学の視点からというユニークな展示であり、文化財を保存する意義や博物館の役割などを多くの人に啓発することができた。</p> <p>(3) 展覧会を通じた県内外の諸団体との連携を図った。</p>
課題	(1) 自主企画では展示を見せる工夫に時間を割くことが難しく、広報・交流普及担当と、より質の高い連携が必要である。
取組に対する自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留

Ⅱ 評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に4本の企画展を実施しており、比較的活発な展示活動が行われているとあってよい。また、非開催期間を利用して、友の会主催の展覧会「マイ・コレクション・ワールド」などの市民が積極的に関与する企画を行って展示室を活用するといった工夫がみられる。</li> <li>・本年度の企画展も、美術、民俗、歴史、博物館学といった幅広い分野に基づくラインナップであり、多くの来館者を取り込もうという努力がみられる。博物館における美術展の開催には賛否が分かれるかもしれないが、美術品も民俗や歴史を伝える重要な資料であるゆえ、当評価委員会としては、企画展として美術分野を視野に入れることを高く評価したい。また、「守れ！文化財—博物館のチカラ、市民のチカラ—」は、博物館活動の意義や使命を伝えるという異色のテーマを扱った意欲的な企画であった。本県の中核博物館としての特色が活かされた展示ともいえよう。博物館の活動内容や役割が、市民にまだ十分に理解されているとはいえない現在において、本展示のもつ教育的な意義は大きい。開催時期もあつてか、観覧者数が伸びなかったことが残念である。</li> </ul>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	調査・研究	学芸課・経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。</li> <li>・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。</li> <li>・講座参加者の満足度を高める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 外部研究費取得件数	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>4(+3)</td> <td>6</td> <td>6(+3)</td> <td>6 件</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">( ) 内は研究分担者</p>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	4(+3)	6	6(+3)	6 件
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	4(+3)	6	6(+3)	6 件										
	○ [評価指標] 学会発表等件数	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>13 回</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>11 回</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	13 回	11	9	11 回
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	13 回	11	9	11 回										
	○ [評価指標] 論文等執筆件数	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>52 件</td> <td>55 件</td> <td>36</td> <td>55 件以上</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	52 件	55 件	36	55 件以上
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度										
実績	目標	実績	目標											
52 件	55 件	36	55 件以上											
(1) 外部研究費（科学研究費ほか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡部浩二（研究代表者）「佐渡金銀山技術書と佐渡金銀山絵巻の複合的研究」科学研究費基盤C</li> <li>・前嶋敏（研究代表者）「中近世における武家文書群の伝来」科学研究費基盤C</li> </ul>													
(2) 学会発表等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮尾亨「越後の伝統食から『和の食』へ～縄文食文化を語る～」地域医療研究会</li> <li>・陳玲「豪雪地帯で見られる「脚なし」唐箕」新潟県民具学会</li> </ul>													
(3) 論文等執筆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山本哲也「復興に果たされる“博物館のチカラ”とは何か」『博物館研究』52-8</li> <li>・前嶋敏「戦国期越後における堅切紙の文書発給について－永正～天文期の長尾上杉氏を中心として－」『古文書料紙論叢』 査読論文 2 件</li> </ul>													
分 析	<p>(1) 外部研究費は研究分担者を含め多数取得できた。</p> <p>(2) 発表、論文執筆等は正規研究員減および休職も影響し例年より少なかった。</p>													
課 題	<p>(1) 日常業務の中で研究に当てることが出来る割合に差が生じるため、中期的な見通しを持った業務配分が必要である。</p>													

取組に対する 自己評価	評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる	<input type="checkbox"/> やや評価できない	<input type="checkbox"/> 評価できない	<input type="checkbox"/> 判断保留
----------------	-------	---	-----------------------------------	---------------------------------	-------------------------------

II 評価委員会による検証・評価					
取組に対する 全体的評価	評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる	<input type="checkbox"/> やや評価できない	<input type="checkbox"/> 評価できない	<input type="checkbox"/> 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>・当館スタッフが代表者となる科学研究費（基盤研究C）が2件採択されており、レベルの高い充実した研究活動が行われている証といえよう。しかし学会発表や論文発表は、目標値にやや届いていないようである。企画展の担当や、外部団体との連携事業の実施、教育普及活動など、多岐に亙る業務をこなす中で、研究時間を確保することの難しさがあるのだろうか。このような状況下、発表論文に査読付きのものも含まれており、研究の質を保とうとする努力が窺える。</p>				

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	教育・普及 / 学校教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育に一層活用される博物館を目指す。</li> <li>・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。</li> <li>・館内及び館外活動の充実を図る。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機関への施設利用の周知。</li> <li>・体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 県内小学校利用率	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>35%</td> <td>35%</td> <td>35.5%</td> <td>35%</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	35%	35%	35.5%	35%
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	35%	35%	35.5%	35%										
	○ [評価指標] 体験活動の新プログラム導入件数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1 件以上</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	5	1	3	1 件以上
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	5	1	3	1 件以上										
	○ [評価指標] 体験コーナー参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td colspan="2">平成 29 年度</td> <td>2021 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>99%</td> <td>90%以上</td> <td>96%</td> <td>90%</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	99%	90%以上	96%	90%
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度										
実績	目標	実績	目標											
99%	90%以上	96%	90%											
(1) 県内小学校来館校数 147 校(延べ数)														
(2) 体験活動の新規プログラム 3 件の新規オリジナルプログラム「ネコ缶バッジを作ろう!」「ミニ草履の飾りを作ろう!」「作って遊ぼう! 戦国時代」(体験コーナー)														
(3) 出前授業の実施 20 回 1,109 人(まが玉づくり、火おこし体験など)。														
(4) 教育機関への施設利用の周知活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県教育委員会の教育施策説明会…上中下越佐渡の小中・特別支援学校校長</li> <li>・ 新潟市の園長・学校長研修会…保育・幼稚園から高校の園長・校長</li> <li>・ 県及び新潟市の P T A 連合会研究大会… P T A 役員等</li> <li>・ 各地区教員研修会…校長・教頭・研究主任・社会科主任等</li> <li>・ 学校訪問の重点化…常設展・企画展に関する広報活動</li> </ul>													
(5) 学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校新聞部 企画展開場式における取材、学校新聞発行</li> <li>・ 企画展関連イベント参加…高等学校生徒オリジナル商品販売</li> <li>・ 火焰街道博学連携プロジェクト…継続的な学習活動支援</li> </ul>													

分析	(1)小学校来館数は、減少傾向にあるが、学年別に利用する学校が多く、利用率は安定している。 (2)体験コーナー参加者の満足度は高い水準を維持している。 (3)教職員には、展示や解説、体験活動について高い評価を得ている。
課題	(1)幅広い教員層に対する広報活動、研修の実施 (2)体験活動の新プログラム開発・内容の充実と新規性のPR (3)学校からの幅広い要望に応える案内説明やキャリア教育にかかわるプログラムの充実
取組に対する自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留

## II 評価委員会による検証・評価

取組に対する全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内小学校の利用比率は、統計上では、過去最高の35.5パーセントであり、新規体験プログラムの開発や参加者満足度から高く評価する。今後もこの取組の継続を望む。</li> <li>・委員会では、県立の施設として、さらに小学校の利用率増加を図るため、学校の負担だけでなく、県や市町村等からの支援等について、話題となった。</li> <li>・教育機関への施設利用の広報活動や出前授業を引き続き実施するとともに、来館経験のない教職員がまだ多くいる現状があり、引き続き来館へのPRを強化する必要がある。</li> </ul>

### 県内小学校団体利用率の推移

年度	A : 来館校数	B : 出前授業利用校数	A + B	県内小学校数	比率
21	157	12	169	552	30.6
22	161	8	169	534	31.6
23	171	9	180	531	33.9
24	151	6	157	525	29.9
25	164	15	179	510	35.1
26	142	16	158	485	32.6
27	138	13	151	484	31.2
28	149	17	166	481	34.5
29	147	20	167	471	35.5

### 中学校～大学及び特別支援学校の来館者の推移

年度	来館校数	来館者数
21	47	2,268
22	49	1,833
23	47	2,612
24	52	2,116
25	66	2,370
26	52	1,563
27	70	3,116
28	60	1,727
29	66	1,641

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	教育・普及 / 社会教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。</li> <li>・ 館内・館外での活動の充実を図る。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会教育機関との連携に努める。</li> <li>・ 館内講座・出前講座を継続する。</li> <li>・ ボランティアの受入の推進。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 出前講座の参加者満足度												
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th colspan="2">平成 29 年度</th> <th>2021 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>92%</td> <td>90%</td> <td>92%</td> <td>90%</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	92%	90%	92%	90%
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度									
	実績	目標	実績	目標									
92%	90%	92%	90%										
○ [評価指標] 館員の講座・講演会の参加者満足度													
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th colspan="2">平成 29 年度</th> <th>2021 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>94%</td> <td>90%</td> <td>96%</td> <td>90%</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	94%	90%	96%	90%	
平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度										
実績	目標	実績	目標										
94%	90%	96%	90%										
○ [評価指標] ボランティアの活動延人数													
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th colspan="2">平成 29 年度</th> <th>2021 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>538 人</td> <td>500 人</td> <td>496 人</td> <td>500 人</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	538 人	500 人	496 人	500 人	
平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度										
実績	目標	実績	目標										
538 人	500 人	496 人	500 人										
	<p>(1) <b>出前講座</b> 県内 13 市町村から要請 19 回実施、参加者 707 名</p> <p>(2) <b>館内講座</b> 43 講座・講演会を実施、参加者 1,255 名</p> <p>(3) <b>ボランティア登録者</b> 20 名（中学生ボランティア 5 名）</p> <p>(4) <b>ボランティア活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料整理、講座の受付、広報活動、体験コーナーや学校団体の体験活動の補助、さらに新規に体験プログラムの開発・運営への参画</li> <li>・ 常設展示室「縄文人の世界」案内解説（中学生ボランティア）</li> </ul> <p>(5) <b>ボランティア増加の取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生ボランティアの継続実施</li> <li>・ 来館者に対する広報活動の重点化</li> <li>・ 大学生ボランティアの臨時募集（夏季企画展時）</li> </ul>												
分 析	<p>(1) 出前講座は市町村の要請に基づいて計画、実施し、H27 以降ほぼ同等である。</p> <p>(2) 館内講座は、昨年度同様、定期的に行っている定番の講座に継続して参加している常連の聴講者が目立った。企画展と連動した記念講演会と講座も好評を博し、新規に聴講する初参加の方が増えた。</p> <p>(3) ボランティア登録者は昨年より 3 名増加。体験プログラムの開発・運営にも関わっていただくなど、各活動へ積極的に携わっていただいたものの、延べ人数は目標値にわずかに届かなかった。</p> <p>(4) 7～8 月に、5 名の中学生ボランティアによる常設展示の案内解説を実施した</p>												



	(4年度目)。学校及び地域との連携により、若年層の社会参加、館の事業として公共の場における情報発信を継続的に進めている。 (5)平成28年度からの新たな取組として、大学生ボランティアを募集し、29年度は4名の大学生に夏季企画展会期中の土日を中心に協力を得た。
課 題	(1)出前講座：各地区の生涯学習担当者との連携強化、広報活動展開 (2)館内講座：固定客の維持、参加者の若年層への拡大 (3)ボランティア：活動内容と組織の充実、活動に即した研修等の実施
取組に対する 自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>・出前講座19回、館内講座43回は大いに評価できる数値である。内容面では、出前講座はここ数年多くの満足度を得ており、講座の要請もH27以来ほぼ変わらず定着している。貢献度は高いといえる。館内講座は定番の講座により、常連の聴講者を維持する一方、企画展と連動した講座により、新規の聴講者を増やすなど工夫が見られる。今後は若年層、親子、高齢者など多様化したニーズに応えるために、気軽で親しめる講座のほか専門的な講座など、更なる多彩な企画を期待したい。</p> <p>・ボランティア活動については、延べ人数は目標値にわずかに届かなかったが、ボランティア登録者の増加や体験プログラムの開発・運営への参画など内容面において評価できる。</p> <p>若年層の社会参加を考えた学生のボランティア、専門知識を活かしたボランティア、豊かな経験や知識を持つ高齢者ボランティアなど多様な人材の確保に力をいれ、博物館の活性化を図ってほしい。</p>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	連 携—学術面の連携	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。</li> <li>・ 幅広い団体とのネットワークを強化する。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。</li> <li>・ 県内外の他館および団体と共催しての巡回展の実施に努める。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価					
取組実績	○	[評価指標] 地域史研究ネットワーク事業数			
			平成 29 年度		
		平成 28 年度	平成 29 年度	2021 年度	
		実績	目標	実績	目標
		2 件	2 件	2 件	2 件以上
	○	[評価指標] 展示協力等他機関との連携事業			
			平成 29 年度		
		平成 28 年度	平成 29 年度	2021 年度	
		実績	目標	実績	目標
		継続	継続	継続	継続
	<p>(1) 地域史研究ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※新潟県地域史研究ネットワークニュースの発行（月 1 回）</li> <li>※研究紀要に新潟県関連の文献目録を掲載（年 1 回）</li> </ul> <p>(2) 移動展 「復興祈念展」 1 回（福島県二本松市）</p> <p>(3) 展示協力 4 件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮尾 亨（信濃川火焰街道連携協議会）</li> <li>・ 渡部浩二（佐渡金銀山ガイドンス施設プロポーザル選定委員会）</li> </ul> <p>(4) 研究協力 4 件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山本哲也（「博物館研究」編集委員会＝日本博物館協会）</li> <li>・ 宮尾 亨（信濃川 - 千曲川プロジェクト＝セインズベリー日本藝術研究所）</li> </ul> <p>(5) 全国規模研究会への参画 など</p> <p>(6) 高等教育機関講師派遣 20 件（新潟大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学・新潟薬科大学ほか）</p>				
分 析	<p>(1) 地域史ネットワークは参加団体向けの研修など充実をはかっている。</p> <p>(2) 参加団体向けの研修など充実をはかっている。</p> <p>(3) 移動展・展示協力・研究協力・高等教育機関講師派遣など、県内外との協力関係が引き続き維持できている。</p>				
課 題	<p>(1) 地域史ネットワーク参加団体向け研修を定期化し、また内容の充実をはかっている。</p> <p>(2) 本県の文化財救援体制整備について、県教育委員会と協議継続。</p>				
取組に対する 自己評価	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>・他機関への資料の貸し出し、展示協力、専門知識の提供など、本県の中核博物館に求められる機能がしっかりと発揮されている。大学等での講師は、博物館という現場ならではの知識や経験が提供される貴重な機会であり、学術的、社会的貢献は大きい。時間的には厳しいことと想像できるが、継続を望む。他方、学会等への参画、大学の研究者との共同研究や共著執筆といった活動も行われており、連携を通じた博物館の知の提供と蓄積が、バランスよく行われていると見受けられる。</p>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	連携 / 地域づくりに向けた連携	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。</li> <li>・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体との事業共催等による連携を模索する。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価					
取組実績	○ [評価指標] 地域団体の活動への参画件数				
		平成 28 年度	平成 29 年度	2021 年度	
		実績	目標	実績	
		30	15	15	
				目標	
	歴史博物館と共催文書を交わしたものを含め、実施した事業数				
	(1)新潟県立歴史博物館友の会				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友の会主催展覧会 「第 14 回マイ・コレクション・ワールド」の開催（6～7月）</li> <li>・研修旅行 「国石“ひすい”選定記念 糸魚川の歴史と文化にふれる旅」（7月）</li> </ul>				
	(2)県内各種イベントでの体験ワークショップ				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡まつり（8月）での昔遊び体験</li> </ul>				
	(3)文化遺産総合活用推進事業				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>（馨女唄ネットワーク、佐渡郷土文化の会との主催事業）</li> <li>・伝統芸能上演会「馨女唄と文弥節で愉しむ 山椒太夫の世界」（8月）</li> </ul>				
	(4)その他の関係団体				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火焰街道博学連携プロジェクト</li> <li>・表千家われもこう（企画展での呈茶席開催）</li> </ul>				
	(5)リピーター割引の実施				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馬高縄文館、近代美術館、雪国植物園、越後丘陵公園など近隣施設や万代島美術館、自然科学館などの県内美術館博物館の半券を提示することで当館の企画展観覧料を2割引とし、連携を進めている。</li> </ul>				
分 析	(1)文化庁の助成金を1件獲得し、各種団体との連携を推進。地域づくりに向けた各種事業を実践できた。				
課 題	(1)新規団体の開拓…これまでの協力団体からの拡大 (2)地域づくりに向けた連携強化…地域の文化団体と連携を図りながら、歴史を通じた地域づくりを支援				
取組に対する 自己評価	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体の活動への参画件数は、目標をわずかに下回っているが、これまでの実績から見て、評価できる。</li> <li>・ヒスイ、瞽女、火焰型土器など新潟を代表する歴史・文化プロジェクトとの連携は、地域づくりに大きな役割を果たすものであり、評価できる。</li> <li>・近代美術館などとの連携が進められており評価できるが、更に多様な地域活動との連携を図り、地域の魅力向上と歴史博物館の入館者の増加に努めていただきたい。</li> </ul>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	情報発信／情報発信	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館の活動について、県民認知度を高める。</li> <li>・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。</li> <li>・ITやマスコミを活用した情報発信の充実を図る。</li> <li>・県外客誘致のための広報に努める。</li> <li>・観光事業団体との連携を強化し誘客に努める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数												
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th colspan="2">平成 29 年度</th> <th>2021 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>213/134/170</td> <td>200/100/150</td> <td>274/137/186</td> <td>200/100/150</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	213/134/170	200/100/150	274/137/186	200/100/150
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度									
	実績	目標	実績	目標									
213/134/170	200/100/150	274/137/186	200/100/150										
○ [評価指標] 館ホームページへのアクセス件数													
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th colspan="2">平成 29 年度</th> <th>2021 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>129,764 件</td> <td>100,000 件</td> <td>118,482 件</td> <td>100,000 件</td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	129,764 件	100,000 件	118,482 件	100,000 件	
平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度										
実績	目標	実績	目標										
129,764 件	100,000 件	118,482 件	100,000 件										
	<p>(1) 報道掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞・雑誌・テレビ等は、前年並みを維持。</li> <li>・雑誌は、県内各地域のタウン誌や広告媒体（フリーペーパー）の他、県外の雑誌にも掲載され、前年並みを維持。</li> </ul> <p>(2) 館ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式フェイスブック・ツイッター・インスタグラムを活用し、頻繁に情報発信した。</li> <li>・過去に発生したハッキング事案を受け、今年度も引き続き情報危機管理体制の強化に努めた。</li> </ul>												
分 析	<p>(1) イベントごとに情報発信しているため、イベントを増やすことで新聞等に掲載される機会が増える。</p> <p>(2) ホームページのアクセス数は目標を上回ったものの、前年度より約9ポイント減少。業者からはトップページのマンネリ化が指摘されている。</p>												
課 題	<p>(1) 企画展の内容に当てはまる雑誌等に積極的に情報提供する。</p> <p>(2) ツイッターなどSNSを活用し、積極的な情報発信を行う。</p> <p>(3) 今後ともセキュリティ対策の充実を図る必要がある。</p>												
取組に対する 自己評価	<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価できる</td> <td>やや評価できる</td> <td>やや評価できない</td> <td>評価できない</td> <td>判断保留</td> </tr> </table>	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留							
評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留									

### II 評価委員会による検証・評価

<p>取組に対する 全体的評価</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留</p>
<p>評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言</p>	<p>・館のPRはさまざまな媒体を多角的に使うのが望ましいし、その意味で活動は自己評価を裏付ける内容である。ただ、これまでのやり方を踏襲しつつも、マンネリに陥らないようにしてほしい。展覧会やイベントに興味があっても、なかなか足を運ぶまでに至らないケースが少なくないはずで、これには館の立地も関係している。ここが重要で、関心があっても来場までに至らない人を念頭に置きながらの工夫・見直しを行って行っていただきたい。課題を3点あげているがこれも妥当である。</p>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	管理運営	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。</li> <li>・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価・外部評価の実施。</li> <li>・評価結果の的確な反映によるPDC Aサイクルの確立。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ [評価指標] 全体収支比率	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">平成 28 年度</th> <th colspan="2" style="width: 50%;">平成 29 年度</th> <th style="width: 25%;">2021 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5%</td> <td style="text-align: center;">5%</td> <td style="text-align: center;">5.6%</td> <td style="text-align: center;">(5%)</td> </tr> </table>			平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	5%	5%	5.6%	(5%)
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	5%	5%	5.6%	(5%)												
	○ [評価指標] (評価指標の達成率)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">平成 28 年度</th> <th colspan="2" style="width: 50%;">平成 29 年度</th> <th style="width: 25%;">2021 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">67%</td> <td style="text-align: center;">100%</td> <td style="text-align: center;">80.0%</td> <td style="text-align: center;">(100%)</td> </tr> </table>			平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度	実績	目標	実績	目標	67%	100%	80.0%	(100%)
	平成 28 年度	平成 29 年度		2021 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	67%	100%	80.0%	(100%)												
	(1)博物館運営方針 (H29～H33)、及び年度初めに設定した「当面の課題」6項目に沿って活動全般を進めた。															
	(2)現運営方針に基づくPDC Aサイクルを継続した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動評価表の作成、及び経営会議での議論等による自己評価</li> <li>・外部評価委員による検証と評価</li> <li>・これらを踏まえた改善と進捗管理</li> </ul>															
(3)月各1回の課内会議、経営会議、全体会議を連動させて進捗管理に努めた。																
(4)施設管理について、不具合が発生した設備・機器等の更新・補修を実施した。																
(5)来館者の安全・安心確保、要望聴取に関しては、従前の日常的対応（業務日報・アンケート・案内説明員研修等）を堅持した。火災に備えた防災訓練を年3回行い、深化を図った。																
分 析	(1)目標の設定・共有を図りながら進める、これまでの館運営の基本的な仕組みを継続し、定着・深化を図っている。															
課 題	(1) PDC Aサイクルを定着させ有効に機能させる。 (2) 入館者数を増やすことによる観覧料収入の増加、経費の節減 (3) 計画的な設備・機器等の更新・補修の実施															



新潟県立歴史博物館評価委員会報告書

発行日： 平成 30 年 8 月 31 日

編集発行： 新潟県立歴史博物館評価委員会